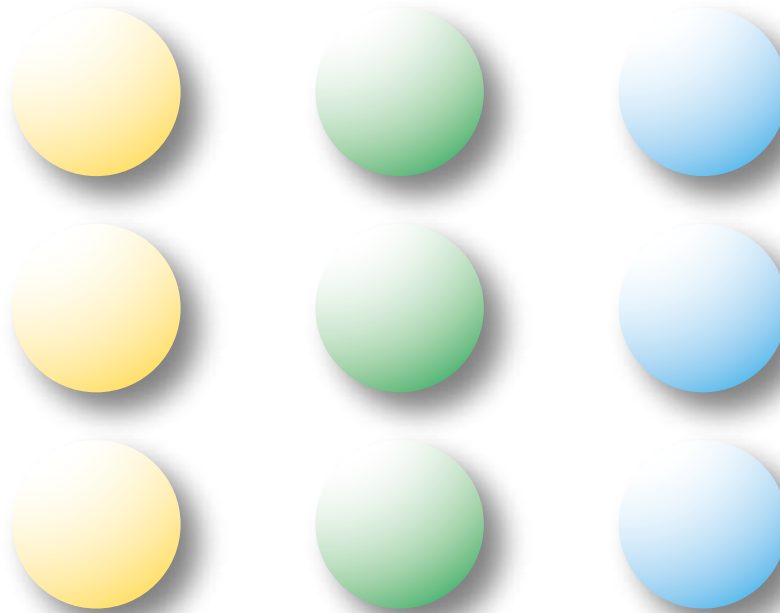


# ビール・発泡酒・新ジャンル商品の 酒税に関する要望書

平成23年9月



## ビール酒造組合

ホームページ <http://www.brewers.or.jp>

会長代表理事 **相場 康則**

会員会社 サントリー酒類株式会社  
アサヒビール株式会社  
キリンビール株式会社  
サッポロビール株式会社  
オリオンビール株式会社

## 発泡酒の税制を考える会

ホームページ <http://www.happoshu.com>

会長 **相場 康則**

会員会社 サントリー酒類株式会社  
アサヒビール株式会社  
キリンビール株式会社  
サッポロビール株式会社  
オリオンビール株式会社

# 酒税に関する要望事項

- ビール・発泡酒・新ジャンル商品は国内の他の酒類と比較して極めて高率・高額な酒税が課せられています。また、国際的に見ても、非常に高額な負担となっています。

私たちは、

- ビール酒税の大幅な減税を要望します。
- 発泡酒酒税の減税を要望します。
- 新ジャンル商品の酒税の据え置きを要望します。

- ビール・発泡酒・新ジャンル商品の極めて高率・高額な酒税には、さらに消費税が課せられます。(タックス・オン・タックス)

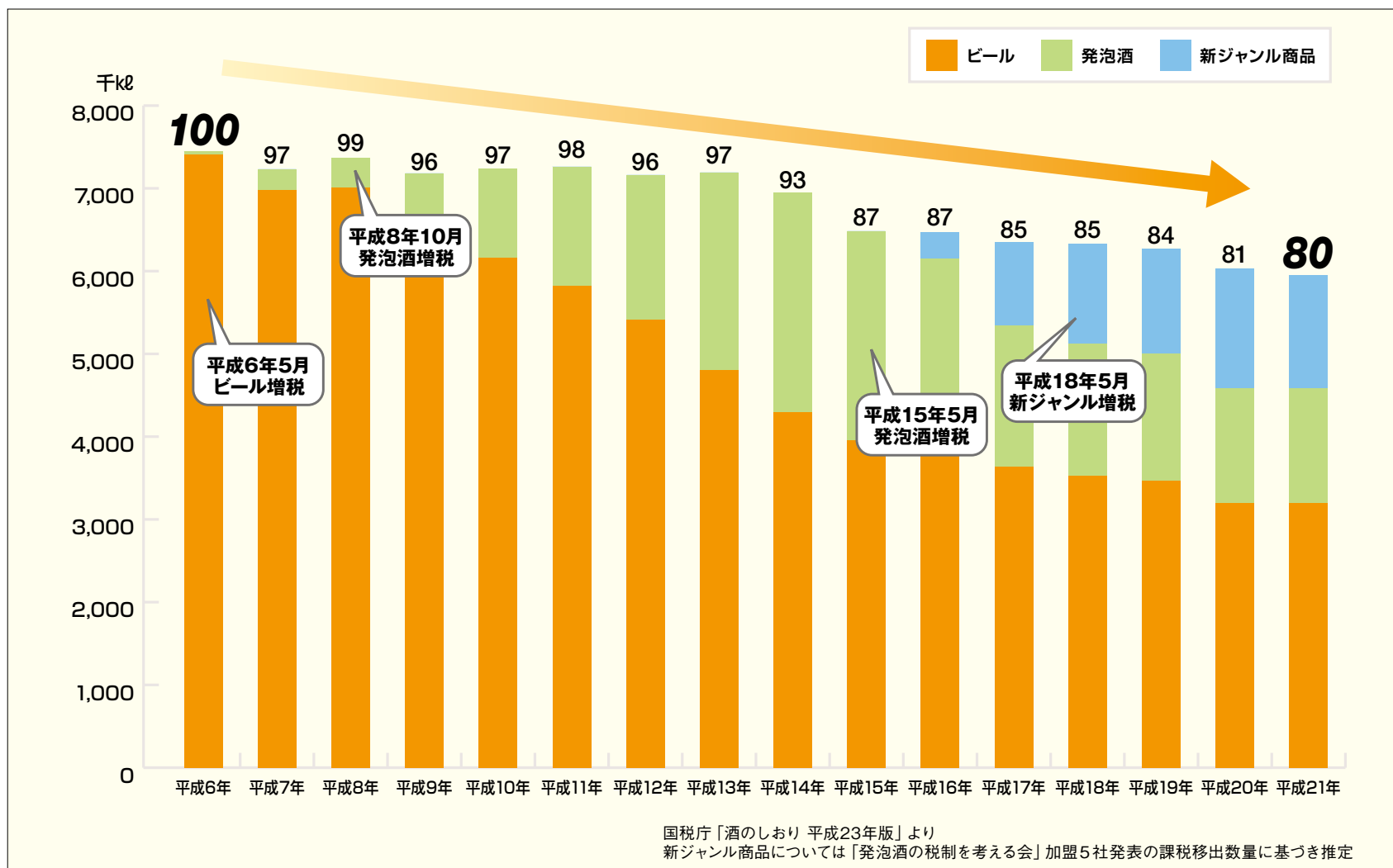
私たちは、

- 消費税率の引き上げが行われる場合には、酒税の大幅な減税により、ビール・発泡酒・新ジャンル商品愛飲者の現在の高率・高額な税負担を軽減する措置を強く要望します。

# ビール・発泡酒・新ジャンル商品の市場推移

ビール・発泡酒・新ジャンル商品トータルの市場は年々減少傾向にあり、平成21年のトータルの市場は、平成6年のピーク時の8割にまで減少しています。

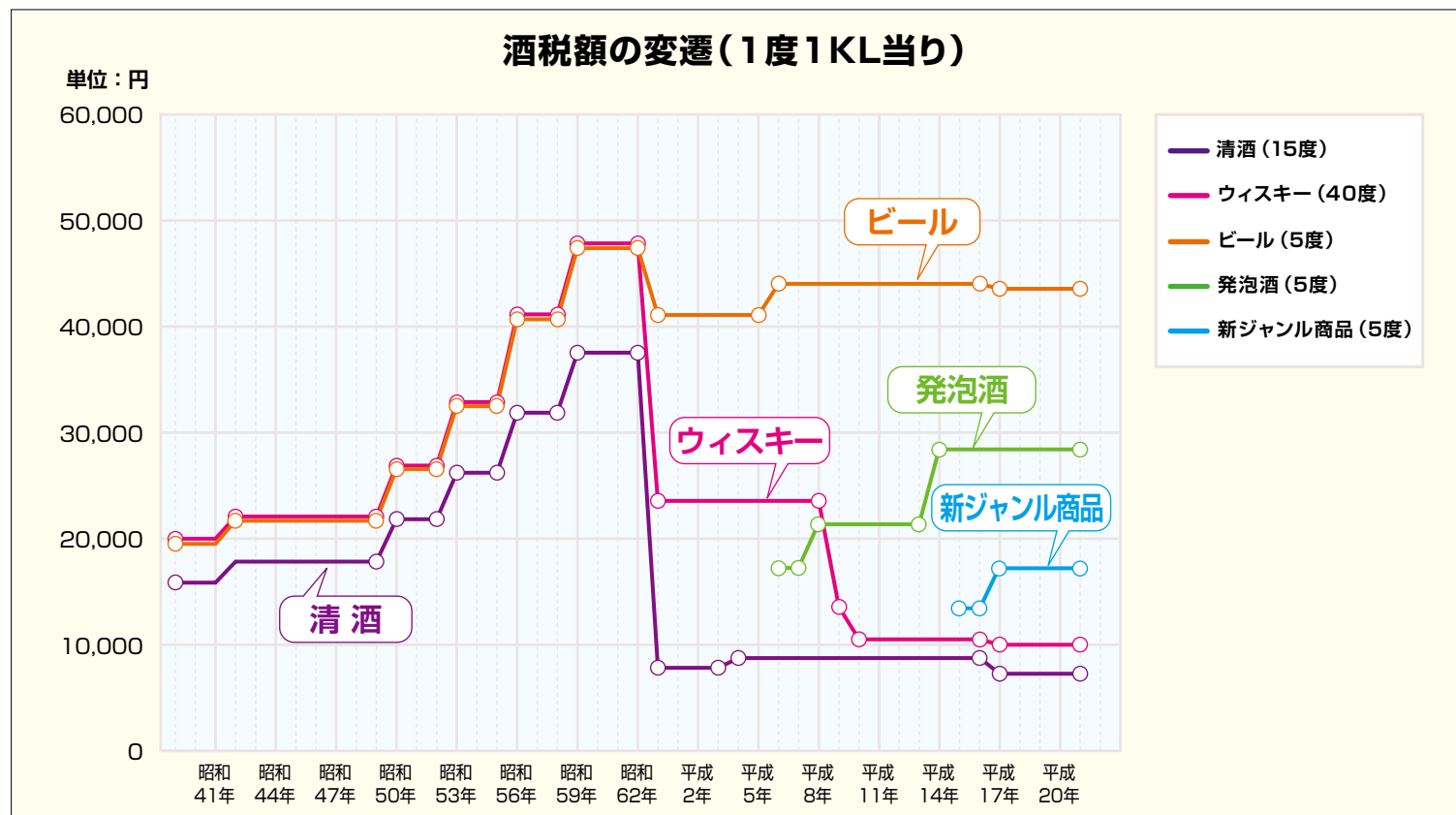
平成6年の総市場を100とした場合の市場の推移



# 酒税改正の経緯

平成元年(1989年)に消費税制度が導入され、乗用車・貴金属・電化製品などの奢侈品への個別間接税は段階的に廃止されました。酒税においては従価税や級別制度の廃止により、実質清酒、ウィスキーは大幅な減税が行われました。しかしながら、ビールは消費税程度の減税は行われましたが、租税収入の確保のために、たばこ税、揮発油税とともに例外的に高い税率のまま残されました。

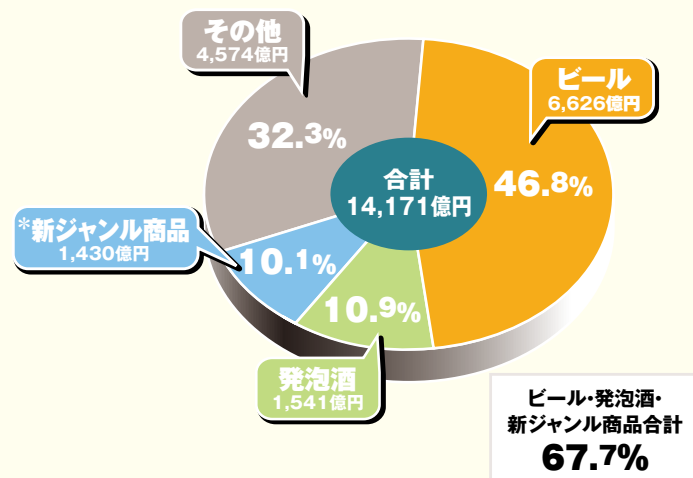
平成9年(1997年)の消費税引き上げ時には、ウィスキーの減税は行われましたが、ビール税の減税は行なわれず、酒税・消費税による税負担は、さらに高まり今日に至っています。



# 先進国における酒税の国税（直接税+間接税）に占める割合

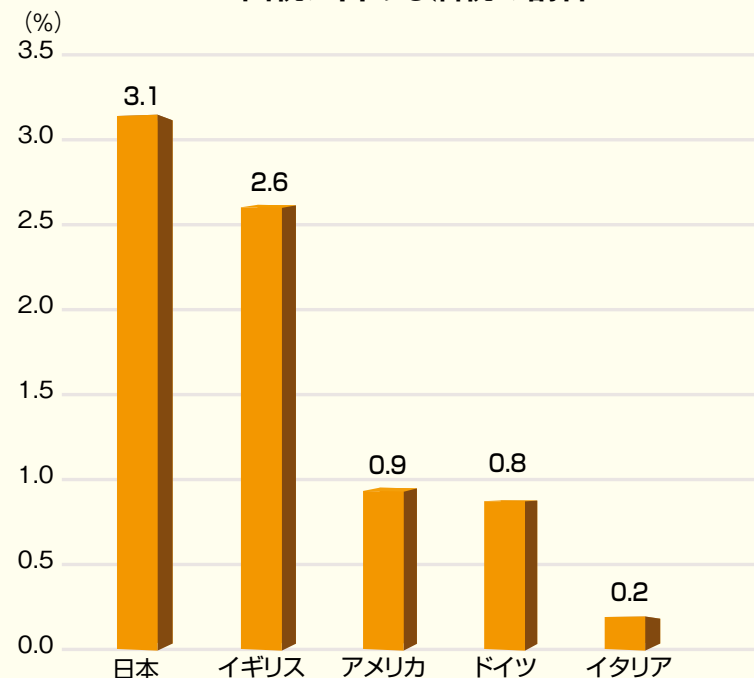
- 日本の酒税総額の7割はビール・発泡酒・新ジャンル商品が占めます。
- ビール・発泡酒・新ジャンル商品の酒税を高額・高率で維持してきた結果、酒税の国税に占める割合は、日本が先進諸国の中で著しく高比率となっていることがわかります。

酒税額に占めるビール・発泡酒・新ジャンル商品の構成比



国税庁「酒のしおり 平成23年版」より  
新ジャンル商品については「発泡酒の税制を考える会」加盟5社発表の課税移出数量に基づき推定

国税に占める酒税の割合



税制参考資料集(平成23年度)

# 酒税と消費税の二重課税(タックス オン タックス)について

「平成22年 税制改正大綱」では個別間接税との二重負担について問題点が指摘されています。

抜粋: 7. 個別間接税

## (1) 基本的な考え方

消費税は基本的に全ての財・サービスに課されていることから、そのほかに間接税を課すことは、実質的に二重に負担をもたらすこととなります。従って、個別間接税については、特定の政策目的を含め、課税の趣旨を明確にすべきです。(以下省略)

## (2) たばこ税・酒税

たばこ税・酒税は、いずれも消費税と実質的に二重の負担をもたらすものであると同時に、これまで安易な財源確保策として用いられてきたという問題があります。

これはたばこ税・酒税が財源確保を目的に創設されたことに由来するものですが、前記の基本的な考え方に照らして、このようなあり方は望ましいものではありません。(以下省略)

## 酒税に関する要望事項

ビール・発泡酒・新ジャンル商品は国内の他の酒類と比較して極めて高率・高額な酒税が課せられています。  
また、国際的に見ても、非常に高額な負担となっています。

私たちは、

- **ビール酒税の大幅な減税を要望します。**
- **発泡酒酒税の減税を要望します。**
- **新ジャンル商品の酒税の据え置きを要望します。**

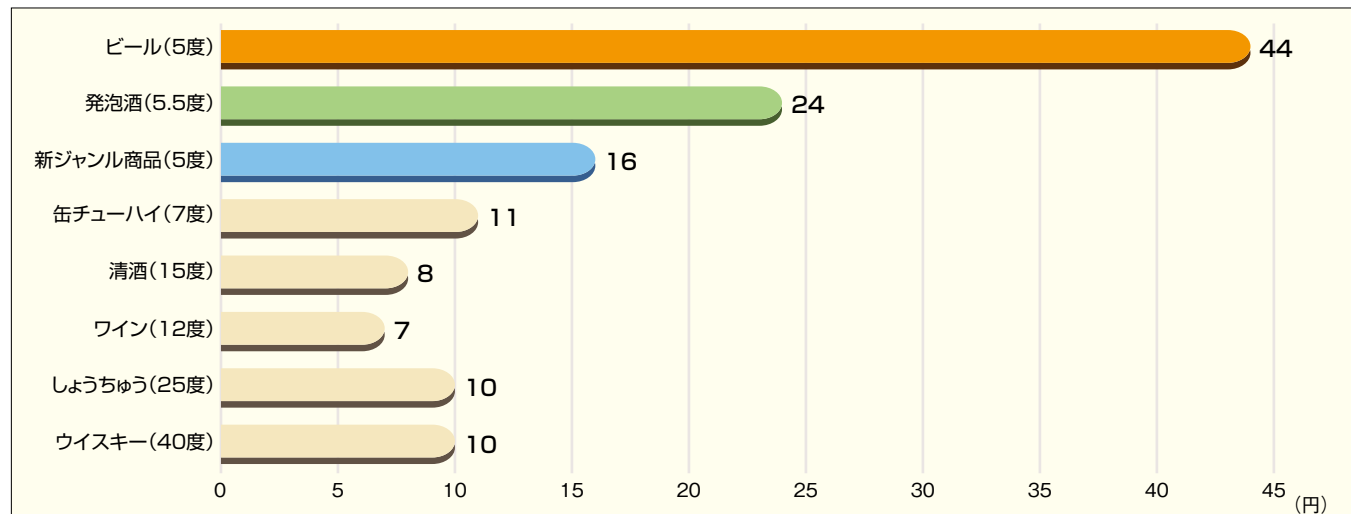
# ビール・発泡酒・新ジャンル商品の酒税の現状

## 酒税の税率

区 分	税率(円) 〔1ℓ当たり〕	アルコール分 1度当たり加算額(円)	一般的な アルコール度数(度)	酒税額 1度1ℓ当たり(円)
<b>発泡性酒類</b>	220,000	—	—	—
<b>ビール</b>	<b>220,000</b>	—	<b>5</b>	<b>44</b>
発泡酒(麦芽比率25%以上50%未満)	178,125	—	5.5	32
発泡酒(麦芽比率25%未満)	134,250	—	5.5	<b>24</b>
<b>その他発泡性酒類(新ジャンル商品)</b>	<b>80,000</b>	—	<b>5</b>	<b>16</b>
その他発泡性酒類(缶チューハイ)	80,000	—	7	<b>11</b>
<b>醸造酒類</b>	140,000	—	—	—
清酒	120,000	—	15	<b>8</b>
果実酒	80,000	—	12	<b>7</b>
<b>蒸留酒類(20度)</b>	200,000	10,000	—	—
ウイスキー・ブランデー・スピリッツ(37度)	370,000	10,000	40	<b>10</b>
焼酎(20度)	200,000	10,000	25	<b>10</b>
<b>混成酒類(20度)</b>	220,000	11,000	—	—
合成清酒	100,000	—	15	7
みりん等	20,000	—	14	1
甘味果実酒・リキュール(12度)	120,000	10,000	12	10

資料：国税庁「酒のしおり平成23年版」より

## アルコール分1度1リットル当りの酒税額比較(主な酒類との比較)



# I

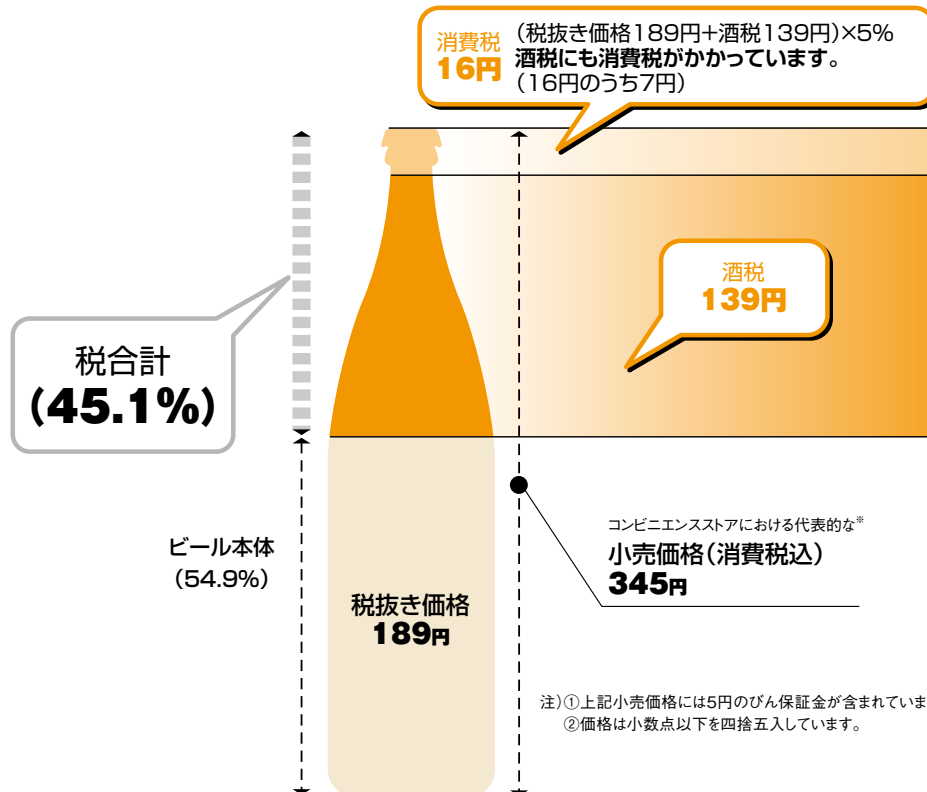
## 私たちは、ビール酒税の大幅な減税を要望します

ビール

### 小売価格に占める酒税、消費税

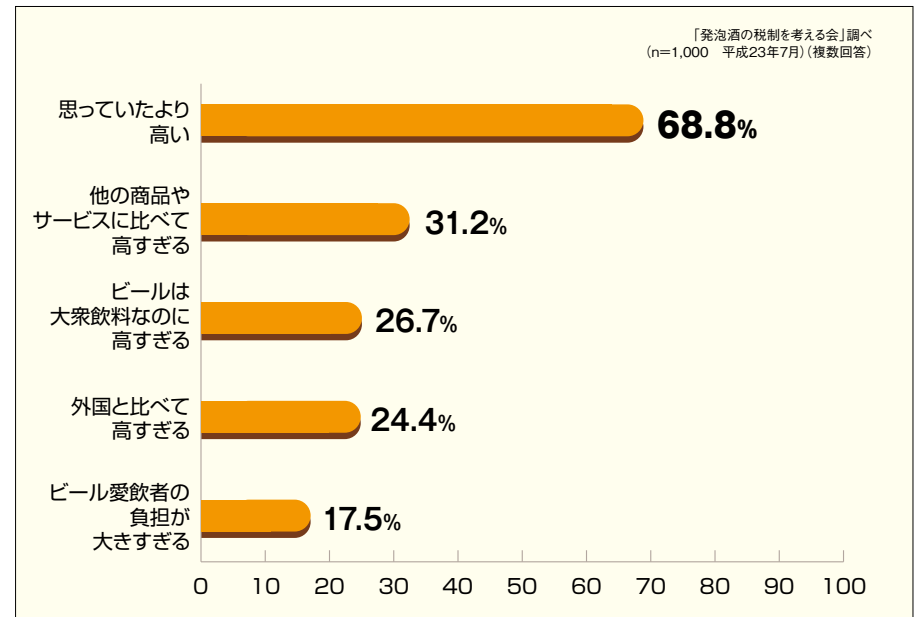
実際に酒税と消費税の税額をビール大瓶を例に取ってみると、小売価格345円\*のうち139円が酒税です。消費税16円が課されるため、小売価格345円のうち155円、45.1%が税金分となります。

#### ビール大びん(633ml)1本当りの税負担



### 消費者の皆様の声

調査によると、68.8%の人がビール酒税は高いと感じています。

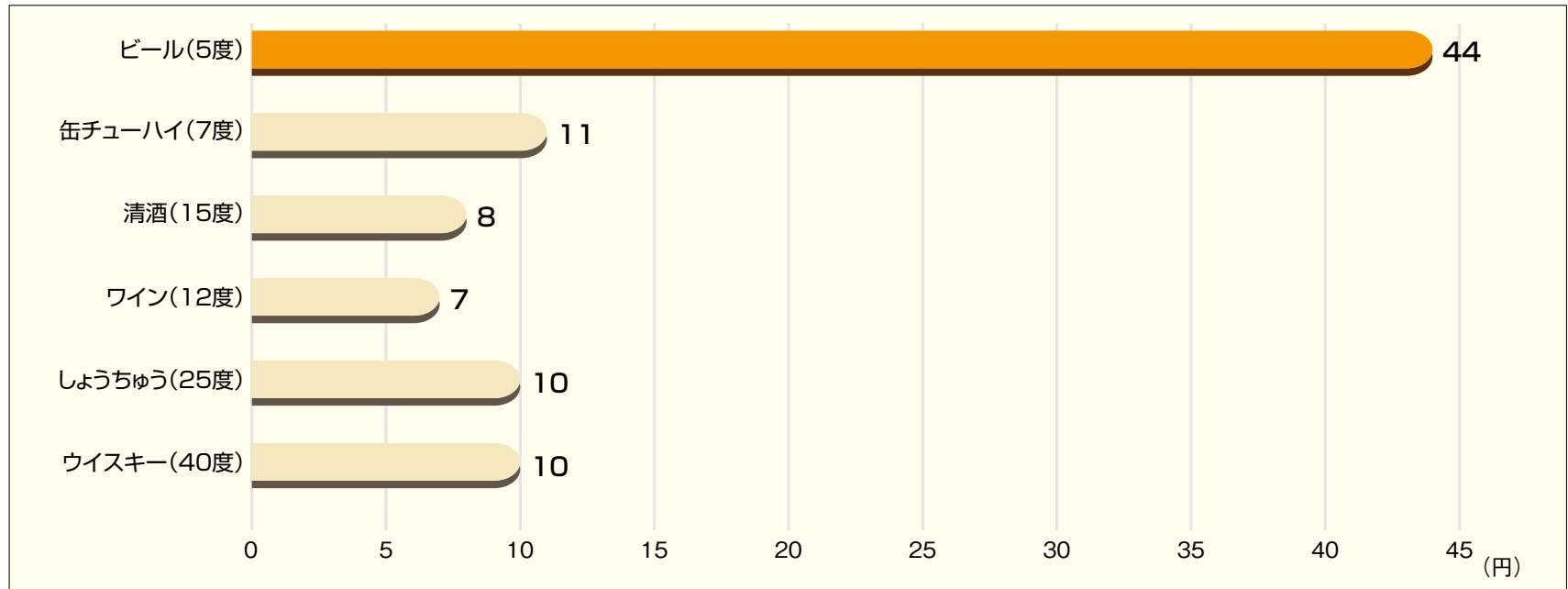


### 他の酒類との比較

ビール酒税は、他の酒類と比較して極めて高く不公平です。

アルコール分1度1リットル当りの酒税額を比較すると酒類間の不公平が明白であり、ビールは他の酒類の4倍以上と群を抜いて高額です。

#### アルコール分1度1リットル当りの酒税額比較



### 諸外国との比較

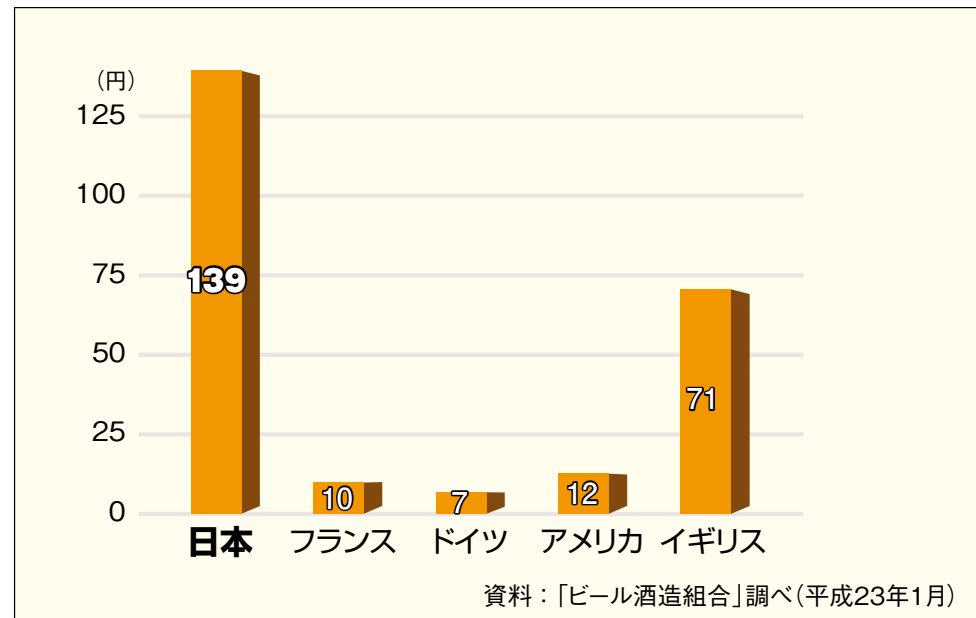
日本のビールの酒税額は国際的に比較して極めて高くなっています。

ドイツの20倍、フランスの14倍、アメリカの12倍となっています。

日本のビールの小売価格に占める酒税の負担は、国際的に見ても、非常に高率かつ高額です。

#### 小売価格に占める酒税負担額

※金額は大瓶1本(633ml)あたりに換算した酒税額

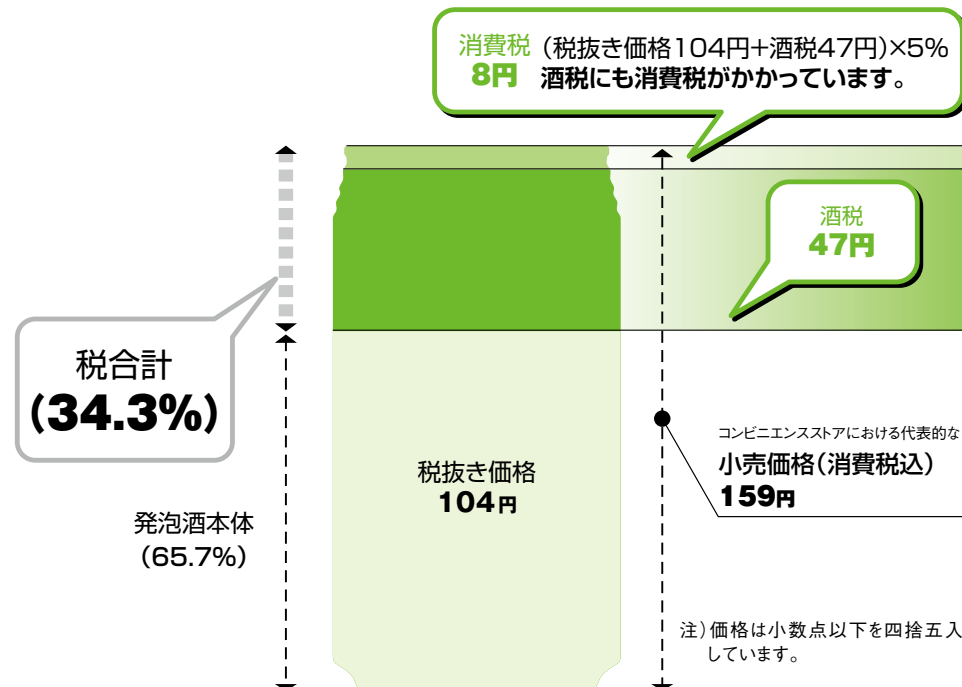


邦貨換算は、1ユーロ116.84円、1ドル80.73円、1ポンド129.78円(平成23年6月末時点のTTMLレートによる)。  
アメリカはニューヨークでの調査

### 小売価格に占める酒税・消費税

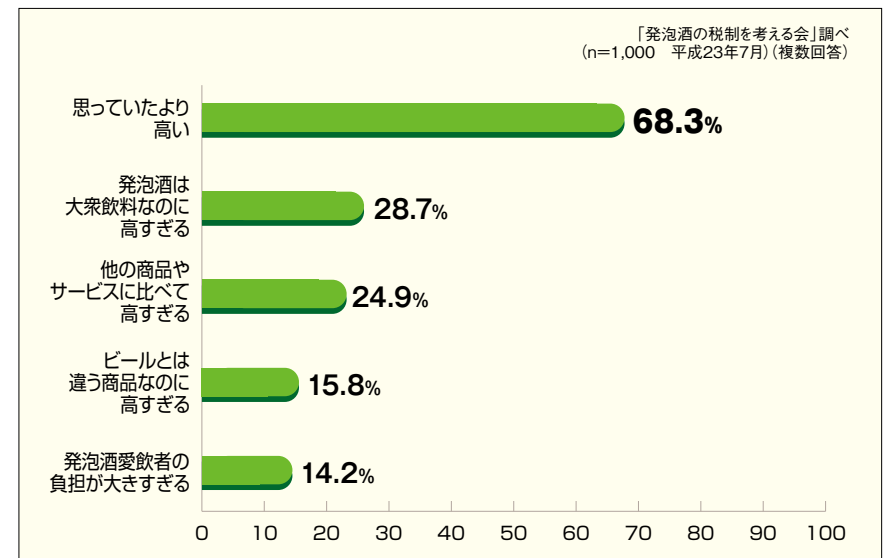
発泡酒は、誕生以来、今日に至るまで加盟各社のたゆまぬ企業努力により、品質も向上し、庶民の酒として広く愛飲されています。しかし、発泡酒の酒税は、平成8年・平成15年と2度にわたり増税が行なわれ、他の酒類に比べ高率・高額となり、小売価格に占める酒税と消費税の合計は34.3%となっています。

#### 発泡酒350ml缶当りの税負担



#### 消費者の皆様の声

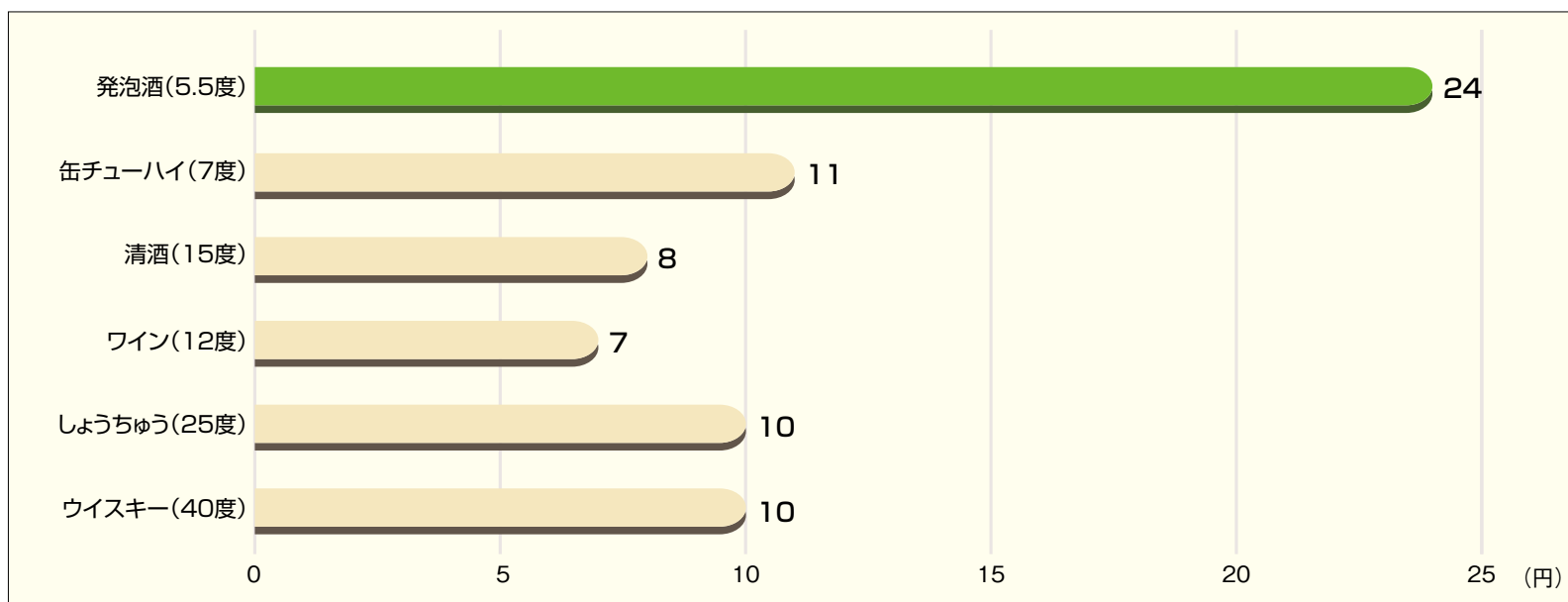
調査によると、68.3%の人が発泡酒酒税は高いと感じています。



### 他の酒類との比較

発泡酒の酒税は、他の酒類と比較して高く、不公平なものとなっています。平成18年5月の酒税法改正においても減税は行なわれず不公平は解消されませんでした。また、アルコール1度1リットル当りの酒税額を比較すると、発泡酒は他の酒類の2倍以上と群を抜いて高額です。

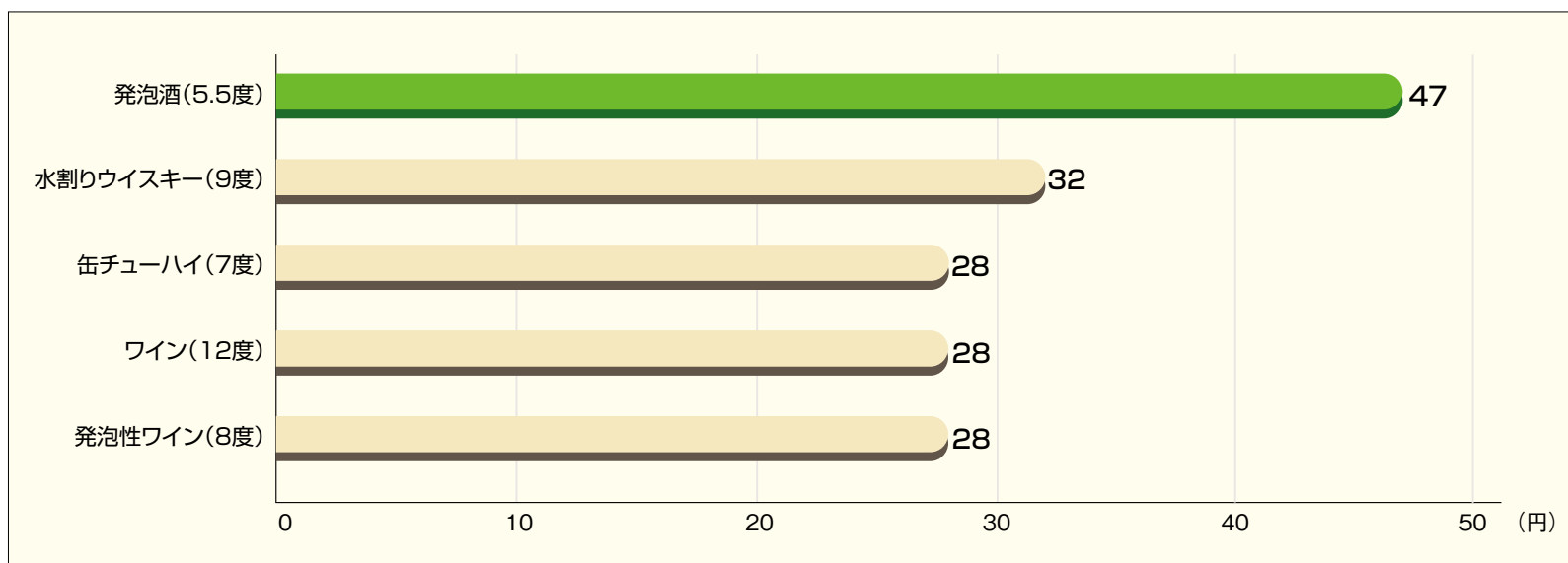
#### アルコール分1度1リットル当りの酒税額比較



### 他の酒類との比較

発泡酒の酒税は、他の酒類と比較して高く、不公平なものとなっています。  
350ml当りの酒税額を比較しても、発泡酒の酒税額は約47円であり、やはり他の低アルコール酒類に比べて高額です。

### 350ml当りの酒税比較



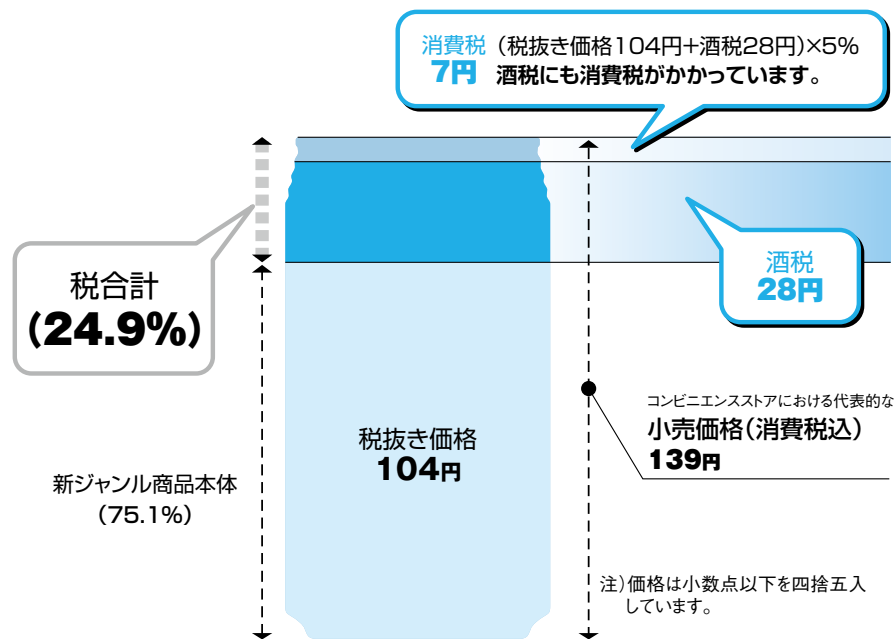
# III

## 私たちは、新ジャンル商品の酒税の据え置きを要望します

新ジャンル商品

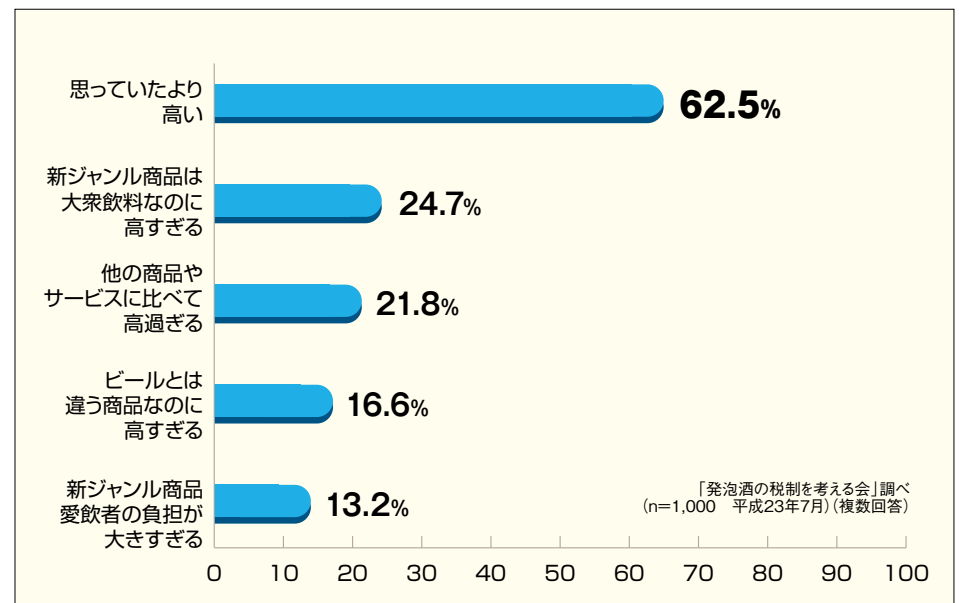
新ジャンル商品は誕生以来、今日に至るまで加盟各社のたゆまぬ企業努力もあり、値ごろ感のある、家計に優しいお酒として広く愛飲されています。平成18年5月の酒税法改正では、残念ながら増税となりました。これ以上消費者の負担を増やさぬよう、是非とも新ジャンル商品の酒税を据え置いて頂きたい、切にお願いします。

### 新ジャンル商品350ml缶当りの税負担



### 消費者の皆様の声

調査によると、62.5%の人が新ジャンル商品の酒税は高いと感じています。

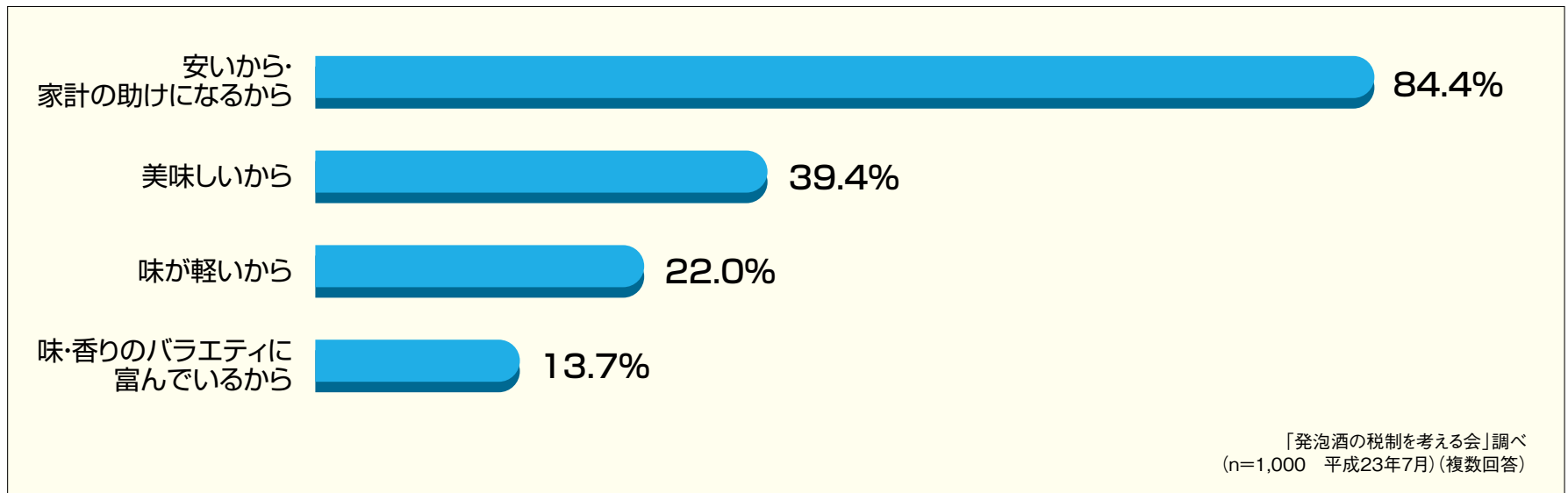


### 新ジャンル商品は家庭で愛飲されている酒類

新ジャンル商品は家庭で愛飲され、値ごろ感のある家計に優しいお酒として消費者の支持を頂いています。

新ジャンル商品が消費者に受け入れられている主な理由は、「安いから・家計の助けになるから」「美味しいから」「味が軽いから」です。

### 新ジャンル商品が消費者に受け入れられている理由(上位4位)



# III

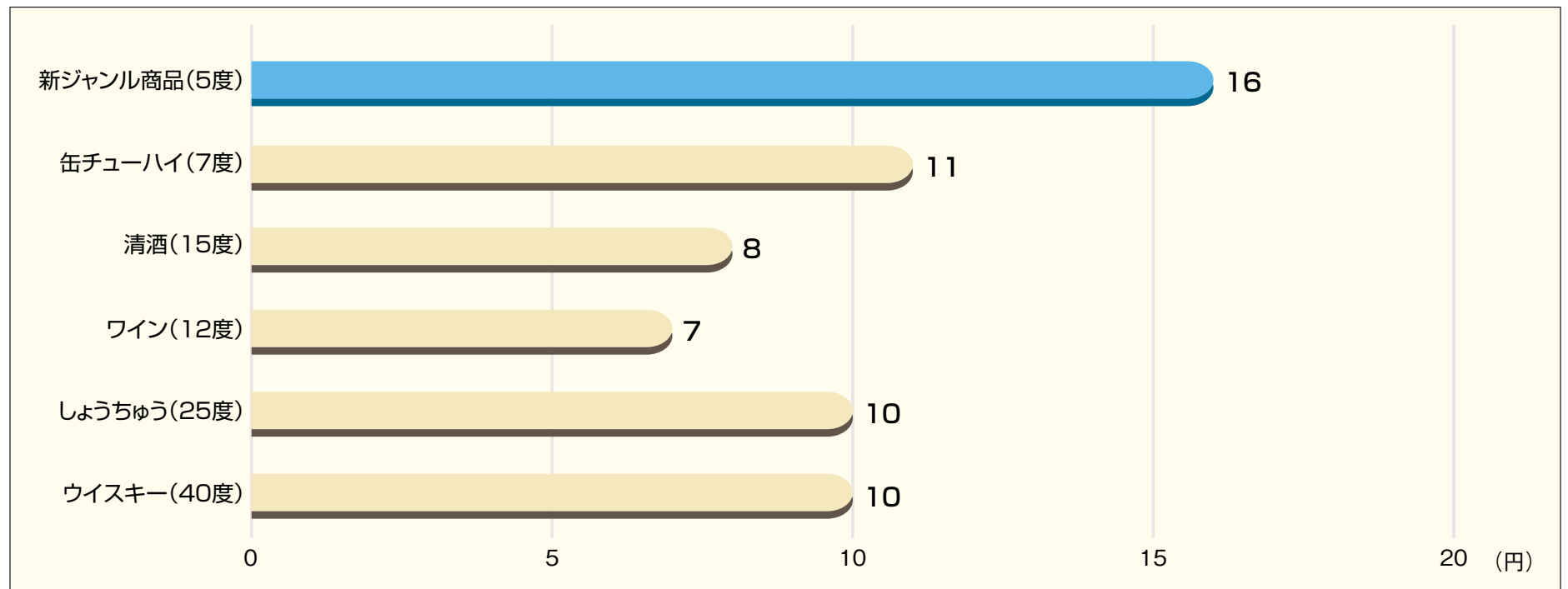
## 私たちは、新ジャンル商品の酒税の据え置きを要望します

新ジャンル商品

### 他の酒類との比較

新ジャンル商品の酒税は他の酒類と比較して高く、不公平なものとなっています。

### アルコール分1度1リットル当りの酒税額比較



# 参考1

## 「ビール」「発泡酒」「新ジャンル」商品とは？

ビール

発泡酒

新ジャンル

酒税法上の分類	ビール	発泡酒	その他の醸造酒 (発泡性)	リキュール (発泡性)
アルコール度数	5% 前後	5% 前後	5% 前後	5% 前後
350ml 缶の 店頭価格(※)	215 円	159 円	139 円	139 円
原料・製法	麦芽、ホップ、水、および副原料(米・とうもろこし等)を発酵させたもの。  (麦芽比率は2/3以上)	麦芽または麦を原料の一部とした酒類で発泡性を有するもの。	糖類・ホップ・水、および大豆・えんどう・とうもろこし等を原料として発酵させたもの。	麦芽比率50%未満の発泡酒にスピリッツを加えたものでエキス分が2%以上のもの。
酒 税 額	220,000円/kl 77円/350ml	134,250円/kl 47円/350ml *麦芽比率25%未満のもの	80,000円/kl 28円/350ml	80,000円/kl 28円/350ml

(※) コンビニエンスストアにおける標準的な小売価格

# 参考2 加盟各社の代表的な製品

	サントリー	アサヒビール	麒麟ビール	サッポロビール	オリオンビール
ビール	 サントリーモルツ	 アサヒスーパードライ	 麒麟一番搾り(生)	 サッポロ生ビール黒ラベル	 オリオンドラフト
発泡酒	 MDゴールドドライ	 アサヒスタイルフリー	 麒麟淡麗(生)	 サッポロ北海道生搾り	 麦職人
新ジャンル商品	 金麦	 クリアアサヒ	 のどこし(生)	 サッポロ麦とホップ	 サザンスター

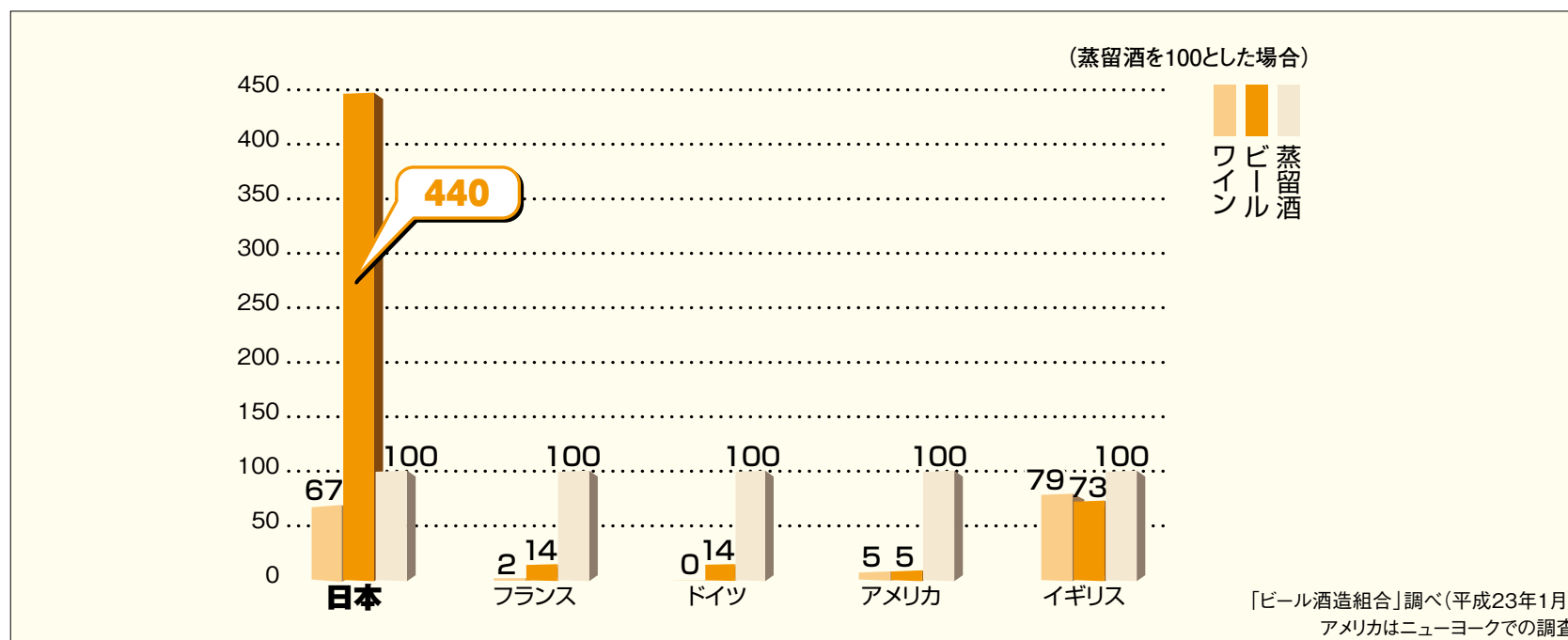
## 参考3 諸外国のビール・ワイン・蒸留酒の酒税額との比較

日本のビールの酒税額は国際的に比較して極めて高くなっています。

醸造酒であるビールに対して、アルコール分1度当りで、蒸留酒に比べ高い酒税を課しているのは、主要諸国の中で日本だけです。

※欧米ではおおむね、蒸留酒には高い税率、醸造酒であるビールやワインには低い税率が標準となっています。

### 主要諸国におけるアルコール分1度当りの酒税額指数



# ビールの税金に対する意見

## 消費者の皆様の声

取りやすいところから取っているような気がする。弱い者いじめだと思う。

一日の疲れをビールを飲んでホッとしたく思うのに増税で高くなると楽しみがなくなる。ささやかな庶民の楽しみを奪わないでほしい。

税金は取りやすいところから取るのが、国としては楽だろうが、贅沢品にもっと課税すべき。

愛飲者が多く数が売れているのにこの税金は高すぎる。酒税が下がればビールを飲む人も多くなるし、数がたくさん売れば税収も見込めるので、酒税を下げ売り上げを伸ばすことも必要だと思う。

嗜好品であるとは思いますが、あまり税金を引き上げると買い控えが増えて、逆に税収が減ると思う。

今まであまり知らなかったが、ビール税が45%とは。これを知ったら、下げるべきだと思う。外国から来た方々には抵抗があるでしょうね。このままでは、安くすれば飲む人がもっと増えるのでは？  
ほんとはビールが飲みたいけど家庭では家計費のことを考えて新ジャンルで、発泡酒で我慢という人が多いと思う。

一般庶民のささやかな楽しみの商品に高額な税率はいかがなものかと思う。私自身収入に余裕があれば発泡酒、新ジャンルではなく、味わいのあ  
るおいしいビールが飲みたい。

# 発泡酒の税金に対する意見

## 消費者の皆様の声

そもそもこんなには税金がかからなかったはずなのに、売れたから増税というのはバカにし過ぎ。

大震災の影響で消費税や所得税の増税が検討されていますが、普段の息抜きであるお酒に対して増税するのは景気を悪化させるだけだと思う。

企業の努力をふみにじるようなことはやめてほしい。高いビールをあきらめ発泡酒で心癒しているのに・・・

税金を下げて、もっと飲んでもらい経済を元気にすべき。

ビールの税金が高いから発泡酒ができたのに、それもまた値上げするのはおかしいと思います。弱いものいじめのような感じがします。

発泡酒は最初安かったのにどんどん値あがって飲む人も減ったと思う。税金を見込みたいなら元に戻して売り上げアップを図れば、消費もあがっていいと思う。

ビールが高くて家計に響くからランクを落として発泡酒にしているのに増税になると又、ランクをおとさなければならなくなる。

ビールから発泡酒に変えている人が少なくないと思うのはやはり税金の問題だと思います。

# 新ジャンルの税金に対する意見

## 消費者の皆様の声

せっかく安いから飲んで  
いるのに、増税なんか  
許せない。

庶民のビールです。  
せめてこれくらい大船に  
乗った気持ちで飲みたい  
です。増税なんてもって  
のほか。もっと減額してく  
ださい。

税金を安くしてどんどん  
消費を上げれば税収も上  
がり、双方が気持ちよ  
くなるのでは？  
今のままだと消費が減  
一方になる。

ビール、新ジャンルとも減  
税すべきです。減税で消  
費が増えて、税収が増え  
るという姿にすべきです。

減税して、消費を促し、  
さらに商品開発を発展  
させ、良い製品を回  
転よく出すことにより、更  
なる消費に結びつける。

庶民のささやかな楽しみ  
を奪わないでほしい。  
復興支援と、ビールの増  
税は、全く別の話。

安いビールしか買えない  
のに、これ以上税金がか  
かると、生活にゆとりが  
なくなり、晩酌の楽しみ  
がなくなる。

新ジャンル商品を増税し  
たら、新ジャンル商品の  
意味がなくなる。



ビール大びんの45.1%\*は税金です。

\*コンビニエンスストアにおける代表的な小売価格(345円)に於ける酒税及び消費税の比率。

高いと思う、ビールの税金。  
**ビール酒造組合**

飲酒は20歳を過ぎてから。

# 3缶飲んだら



# 1缶税金。

安いと思っていた発泡酒も34.3%\*が税金です。

\*コンビニエンスストアにおける350ml缶の代表的な小売価格(159円)に於ける酒税及び消費税の比率。

高いと思う、発泡酒の税金。  
**発泡酒の税制を考える会**

飲酒は20歳を過ぎてから。